

マーケティングによる観光・産業振興

井上 和久

Kazuhiisa Inoue

人間生活学部／人間生活学科

准教授／博士（学術）



研究業績データベース

YouTube公式動画

キーワード

地域マーケティング／観光コンテンツ戦略／プレイス・ブランディング／ソーシャル・イノベーション

研究概要・実践活動

地域資源を活用した価値創造とビジネス化について、マーケティング理論を応用した研究に取り組んでいます。地域ブランド戦略、観光を軸とした産業振興、少子高齢化・過疎化に対応した地域課題解決型ビジネスなど、全国の事例分析を通じてソーシャル・イノベーションの実践的モデル構築を目指しています。経営的視点から地域資源を再評価し、新規事業の創出や地域経済の活性化につながる知見を蓄積するとともに、その社会実装に向けた研究を展開しています。



研究・社会活動実績

地方公共団体や民間企業等と連携したプロジェクトに多数取り組んできました。地域資源を活用した観光振興、地域ブランド戦略、地域ビジネスなどの分野で産学官連携を実践しています。学生と企業による連携の成果は、ビジネスプランコンテストでの受賞にもつながっています。このほか、行政の委員会への参画経験もあります。フィールドワークやステークホルダー対話を通じて地域の現場に寄り添う「伴走型」の取り組みを行い、継続的な協働関係の構築に努めています。

産学官連携の可能性

地域資源を活用した観光振興、地域ブランド戦略、地域ビジネスなどについて、マーケティング理論に基づく実践的な支援を提供できます。地方公共団体の政策立案、観光協会・商工会等における地域戦略、企業における新規事業の創出などに対応します。共同研究・受託研究、審議会参画など多様な形で連携します。

現代の社会問題と社会福祉

杉山 博昭

Hiroaki Sugiyama

人間生活学部／人間生活学科

教授／博士（学術・福祉）



研究業績データベース

YouTube公式動画

キーワード

社会福祉学／社会福祉史／社会福祉思想／キリスト教社会福祉／人権

研究概要・実践活動

少子高齢化が進む現代社会においてさまざまな生活課題が噴出し、社会福祉政策や福祉サービスによる対応が求められています。この課題に応える前提として、社会福祉の思想や理念構造を明らかにする必要があります。そのため近代以降の日本の社会福祉の歴史を分析し、現在まで社会福祉がどのような歩みをしてきたのか明らかにしてきました。特に地域における実践や実践者の思想について研究してきました。多様化する社会福祉の将来像について実践的な視点をふまえて分析しています。歴史を通じて日本の社会福祉の特質を明らかにして、今後の展望を議論していきます。



岡山孤児院発祥地



岡山少年院



青森県弘前市の弘前昇天教会

研究・社会活動実績

近代以降の地域における社会福祉の実践について研究実績をあげてきました。それをまとめた著書が多数あります。山口県が発刊した『山口県史』の編さん委員として近代と現代の社会福祉についてまとめてきました。関連するテーマでの講演を行っています。日本社会福祉学会、社会事業史学会、日本キリスト教社会福祉学会など、社会福祉関係の学会の理事、役員等も務めてきました。

産学官連携の可能性

多様化、深刻化する生活課題について、社会福祉の立場から連携することができます。ハンセン病の問題、渋沢栄一のような企業家による社会福祉への協力などについてこれまで公的機関、行政、経営団体からの講演を求められてきています。

地学官連携で育む「消費者市民社会」

立石 麻美子

Mamiko Tateishi

人間生活学部／人間生活学科

助教／修士（学術）



研究業績データベース YouTube公式動画

キーワード

家庭科教育／福祉科教育／消費者教育／地域連携／教材開発／消費者市民社会／持続可能な社会／地産地消／食育／地域活性化

研究概要・実践活動

家庭科教育・福祉科教育・消費者教育を横断的に統合し、地域・学校・行政が協働する「地学官連携型教育モデル」の構築に取り組んでいます。自立した消費者の育成と持続可能な消費者市民社会の実現を目指し、大学生が岡山県消費者啓発ボランティア講師として中高生や地域住民を対象に講座を実施しています。あわせて、行政と連携した教材開発やICT活用型授業の実践にも取り組んでいます。さらに、地元農家や企業と協働して地域活性化プロジェクトを立ち上げ、地産地消型の商品開発を行うなど、教育と地域貢献を結びつけた活動を展開しています。



消費生活センター連携 若者対象冊子11年ぶり改訂（山陽新聞掲載2024.5.27）



消費者教育教材資料表彰優秀賞授賞式



消費者教育教材資料表彰優秀賞2年連続受賞



福武財団アクション助成キックオフミーティング



大学生主体の地域活性化プロジェクト「Notte Stella」福武財団助成事業

研究・社会活動実績

2024年度および2025年度の消費者教育教材資料表彰において、優秀賞を2年連続で受賞しました。「障害のある人に配慮した教材」と「大切なお金のつかいかたヒント集」を、行政・研究会・学生の協働で作成し高く評価されました。また、岡山県消費生活センターと連携して若者向け啓発パンフレットを制作・配布し、教材として採用されています。加えて、福武財団助成による地域活性化プロジェクト「Notte Stella」を学生主体で展開し、地元資源の活用と学生の実践的学びの場を創出しています。

産学官連携の可能性

本研究室は、地域社会・行政・企業と協働し、「消費者教育」や「地産地消」を推進することを目的としています。教育現場・行政・地域企業を結ぶ教材開発や講座実施、地元農家との商品開発などを通じ、地域資源を活かした持続可能な連携モデルを構築しています。これらの活動は、SDGsの達成に貢献できるとともに、教育・福祉・消費生活分野で産学官の枠組みを超えた柔軟な協働の可能性を目指しています。

社会をシミュレーションで理解する

大東 正虎

Masatora Daito

人間生活学部／人間生活学科

教授／博士（社会学）



研究業績データベース



YouTube公式動画

キーワード

社会シミュレーション／相互作用／商業施設／公共交通／社会的ネットワーク

研究概要・実践活動

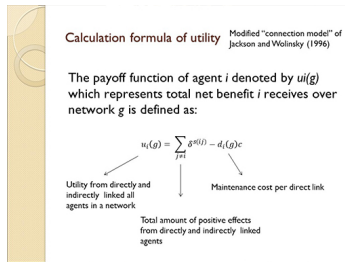
研究は「マルチエージェント・シミュレーションによる社会分析」を主軸とし、社会的ネットワーク、消費者行動、公共交通の3分野で展開してきました。社会的ネットワーク研究では、主体間の相互作用によりスター型構造が成立しにくいことを示し、組織内ネットワーク形成の理論的理解を深めました。地下街の消費者視線分析では、視線に関するシミュレーションを用い、空間構造の特徴と覚えられる店舗との関係を明らかにしました。さらに、公共交通利用促進研究では、高齢者の移動における路線バス・デマンドバスの併用効果を検証し、地域交通政策への応用可能性を提示しました。これらの研究は、学術的貢献に加え、地域社会への実践的還元にも資するものと考えます。



学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクトにて準グランプリ



表町商店街におけるアイカメラを使った視線調査



ネットワーク形成モデルの概要

研究・社会活動実績

研究では「マルチエージェント・シミュレーションによる社会分析」を軸に、社会的ネットワーク形成、消費者視線分析、公共交通利用促進の研究を展開してきました。高齢者の移動支援や地域交通政策への応用可能性を示すなど、実践可能な提案がなされました。さらに、備前市・瀬戸内市の公共交通会議や岡山市、玉野市の委員として、研究成果を地域社会へ還元しています。

産学官連携の可能性

公共交通の利用促進や高齢者の移動支援に関する研究は、自治体や交通事業者との協働に直結し、実証実験や政策提言への応用が可能であると考えます。また、商業施設を対象とした消費者行動分析は、企業のマーケティング戦略への活用可能性を示しており、地域課題解決型連携の促進に貢献できるものと考えます。

地域福祉とひきこもり支援

中井 俊雄

Toshio Nakai

人間生活学部／人間生活学科

准教授／修士（公共政策学）



研究業績データベース YouTube公式動画

キーワード

ひきこもり支援／ソーシャルワーク／地域福祉／地域共生社会／社会的排除／社会正義／地域アセスメント／地域参加／自律／多機関連携

研究概要・実践活動

専門職として長年携わった岡山県総社市社会福祉協議会での実践経験を基盤に、ひきこもり状態にある人々への地域支援とソーシャルワークのあり方を研究しています。特に、行政や社協、地域住民が協働する重層的な支援体制の構築（総社市方式）や、個別支援から地域課題の解決へ発展させるソーシャルワークの実践モデルを提示しています。最新の研究では、厚生労働省の「ひきこもり支援ハンドブック」をソーシャルワークの視点から批判的に分析し、地域住民のエンパワメントと社会変革を目指す支援の重要性を提言しています。地域包括ケアシステムや生活困窮者支援における福祉専門職の活用についても研究を行っています。



研究・社会活動実績

岡山県総社市社会福祉協議会にて27年間勤務し、総社市ひきこもり支援センター「ワンタッチ」設立に関与し、県内外の居場所づくりや家族会運営、サポーター養成などを支援しています。また、厚生労働省や日本社会福祉士会の調査研究事業に参画してきました。この他に静岡県 of 包括的支援体制構築事業アドバイザーや岡山県の地区防災計画のアドバイザーなど県内外の地域福祉、権利擁護等に関する委員や講師を務めています。

産学官連携の可能性

自治体や社会福祉協議会に対し、ひきこもり支援や地域包括ケアシステム、地域共生社会実現のための重層的な支援体制構築、人材育成に関する研修等を行っています。特に、総社市での地域包括ケアや生活困窮支援、障害者福祉などの実践経験を活かし、自治体・大学・NPO・企業等との協働による研究開発や、地域課題の解決に向けたアウトリーチ支援、研修プログラム開発、地域人材育成などを行っています。

新たなメディア環境と消費生活を考える

葉口 英子

Hideko Haguchi

人間生活学部／人間生活学科

准教授／修士（教育学）



研究業績データベース

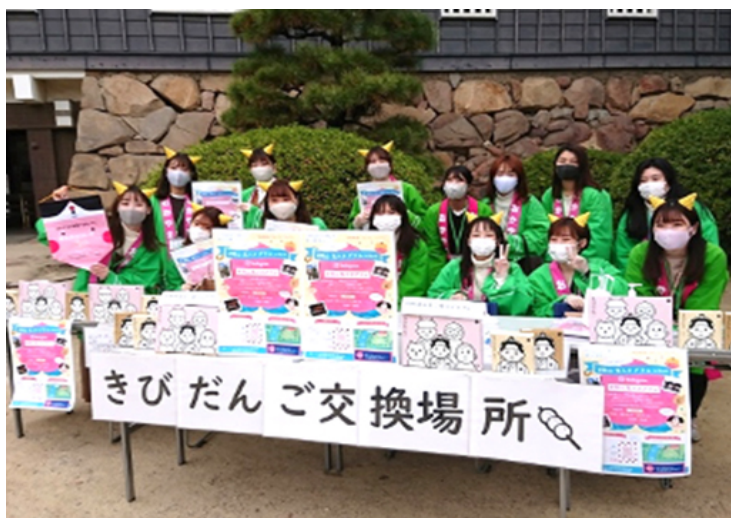
YouTube公式動画

キーワード

メディア論／消費者論／文化社会学／大衆文化論

研究概要・実践活動

これまでの研究では、CM、ポピュラー音楽、映画、アニメなど大衆文化領域のメディア・コンテンツに着目し、それらが私たちの文化・社会や日常生活でどのような意味作用をもって存在しているのか、メディア論、大衆文化論の文脈から考察しています。大学における教育実践では、メディア戦略をテーマとする活動に取り組んでいます。商品開発やイベントの企画・立案に加え、SNSマーケティングの実践として、Instagramの活用や動画コンテンツの制作など、ゼミ活動の一環として行っています。これらの取り組みは、地域の企業や行政組織との協働を基盤とし、企画の立案から計画、実施までを学生と共に進めています。



研究・社会活動実績

研究活動では、以下のテーマに関して著書・論文を執筆しています。

・大衆文化領域のメディア・コンテンツを対象としたメディア表象を分析する

・近現代にみる子どもをめぐる文化、例えば、映画、歌、ラジオ、テレビとの関係をめぐる歴史の変容を考察する

社会活動では、看護師や医療従事者に向けたレポート・論文の書き方、論理的思考による問題解決といった研修の講師を2012年より担当しています。

産学官連携の可能性

地域の企業・行政組織との協働を基本として、学生を主体としたイベントや商品開発の実施等に携わってきました。メディア論、広告論、消費者行動論といった学術領域の知見を活用し、例えば、岡山市の観光資源、特産品を題材に、SNSによる情報発信に学生とともに取り組みました。若年層の女性への訴求をめざし、Instagramのアカウントの開設・運営と同時に、フォロワー拡大のための効果的な活用や表現を検証しています。